立教女学院・聖マーガレット礼拝堂

［指定年月日］平成一八年三月二二日
［種別］有形文化財（建造物）
［名称］立教女学院・聖マーガレット礼拝堂
［点数］一棟
［所有者等］立教女学院
［所在地等］久我山四―二九―六〇

有形文化財（建造物）

立教女学院・聖マーガレット礼拝堂

立教女学院は、関東大震災により昭和五年（一九三〇）に築地（中央区）から現在地に移転してきた。聖マーガレット礼拝堂は昭和七年に竣工した鉄筋コンクリート造の礼拝堂である。設計は聖路加国際病院などの設計をしたJ・V・W・バガミーニによる。聖マーガレット礼拝堂の名前は、立教女学院の英語の校名「セント・マーガレット・スクール」に由来する。セント・マーガレットは一二五〇年聖女に列せられたスコットランド王マルコム三世の王妃マーガレットのことであり、その王妃を女子教育の鏡として校名がつけられた。

礼拝堂は、古典的なロマネスク様式を基調としたデザインで、正面入口部にはナルテクス（玄関廊）を設け、聖堂内部はネイブ（身廊）とアイル（側廊）を設けた三廊形式とし、その境には円柱を配列している。また、正面入口上部にはステンドグラスの丸窓を入れ、入口や窓は半円アーチのデザインとなっている。内部扉や床、家具などの木材は全て北米産のオーク材が用いられ、ロマネスク風の植物や動物の精緻な彫刻が施されている。学校の礼拝堂としての活用が主目的であったため、ナルテクスの南側に廊下を付けて校舎とつなぎ、修道院の回廊のように礼拝堂に向かう気分を高めている。

当初から電動式のパイプ・オルガンが設置されていたが、老朽化のため平成一〇年（一九九八）に新しいものと入れ替えられた。

礼拝堂は学校の施設であるだけでなく、地域社会にとっても重要な施設となるということで、創建時米国聖公会婦人補助会の寄付金を受けて建立されたが、現在でもオルガン演奏会などが催され、時折区民にも開放されている。

学院にはバガミーニによる当時の設計図面一式も保存されており、建築学上きわめて貴重な資料である。

震災復興の中で、鉄筋コンクリート造という新しい構造を採りながらも、伝統の規範を外さず、その雰囲気をかもし出した設計者バガミーニの技量は卓越したものであり、この礼拝堂は近代建築史上からも貴重なものである。

【文化財所在地】